

旭川市中心市街地活性化基本計画の見直しに伴う  
関係団体ヒアリング結果報告

令和4(2022)年12月

旭川市

## 目 次

1	実施概要.....	1
	(1) 対象団体.....	1
	(2) 聞き取り内容.....	1
	(3) 実施時期等.....	2
2	実施結果.....	3
	(1) 今後の買物公園について.....	3
	① 歩行者専用道路（歩行者天国）に関する事.....	3
	② 自動車の通行に関する事.....	5
	③ 電動キックボードの通行に関する事.....	5
	④ 自転車の通行に関する事.....	7
	⑤ イベント開催に関する事.....	7
	(2) 中心市街地の活性化について.....	10
	① 活性化に必要な事.....	10
	② 整備が必要な施設はあるか.....	12
	③ 複合施設, どのような機能が必要か.....	14
	④ 中心部への大学設置.....	14
	(3) その他.....	16
3	実施時の配付資料.....	18

## 1 実施概要

3期目となる旭川市中心市街地活性化基本計画（計画期間：平成29年12月から令和10年3月まで）において、令和4年度はフォローアップを実施する中間年度に当たることから、令和4年8月から11月にかけて関係団体に対してヒアリングを実施した。

### (1) 対象団体

中心市街地に所在する団体や中心市街地で活動している団体で、次に示す団体に対してヒアリングを実施した。

商店街関係	その他
旭川銀座商店街振興組合	緑道ワークス
緑橋ビル商店街振興組合	(一社)旭川観光コンベンション協会
旭川平和通商店街振興組合	(一社)大雪カムイミンタラDMO
5・7小路ふらりーと中央市場組合	旭川まちなかマネジメント協議会
ロータリー商店会	中央地区市民委員会
三和・緑道商店会	大成地区市民委員会
	神楽宮前地区市民委員会
	(一社)旭川青年会議所
	ミズベリング旭川
	まちなかぶんか推進協議会
	旭川平和通買物公園企画委員会
	旭川市中心市街地活性化協議会企画推進分科会
計6団体	計12団体

### (2) 聞き取り内容

令和4年8月から9月まで実施した市民等アンケート調査の質問内容を参考に、次の内容についてヒアリングを実施した。

- (1) 今後の買物公園について
  - ① 歩行者専用道路（歩行者天国）に関すること
  - ② 自動車の通行に関すること
  - ③ 電動キックボードの通行に関すること
  - ④ 自転車の通行に関すること
  - ⑤ イベント開催に関すること
- (2) 中心市街地の活性化について
  - ① 活性化に必要なこと
  - ② 整備が必要な施設はあるか
  - ③ 複合施設、どのような機能が必要か
  - ④ 中心部の大学設置
- (3) その他

### (3) 実施時期等

関係団体へのヒアリング時期等は次のとおり。

団体等の名称	時期
まちなかぶんか推進協議会	R4. 8. 30(水)
旭川まちなかマネジメント協議会	R4. 8. 30(水)
ミズベリング旭川	R4. 9. 6(火)
(一社)大雪カムイミンタラDMO	R4. 9. 7(水)
(一社)旭川青年会議所	R4. 9. 16(金)
大成地区市民委員会	R4. 9. 20(火)
ロータリー商店会	R4. 9. 26(月)
旭川平和通商店街振興組合	R4. 9. 28(水)
旭川銀座商店街振興組合	R4. 10. 19(水)
中央地区市民委員会	R4. 10. 20(木)
緑道ワークス	R4. 10. 20(木)
三和・緑道商店会	R4. 10. 20(木)
5・7小路ふらりーと中央市場組合	R4. 10. 24(月)
旭川平和通買物公園企画委員会	R4. 10. 25(火)
(一社)旭川観光コンベンション協会	R4. 10. 25(火)
緑橋ビル商店街振興組合	R4. 10. 27(木)
神楽宮前地区市民委員会	R4. 10. 27(木)
旭川市中心市街地活性化協議会企画推進分科会	R4. 11. 1(火)

## 2 実施結果

### (1) 今後の買物公園について

#### ① 歩行者専用道路（歩行者天国）に関すること

歩行者専用道路である買物公園に関して、「買物公園のあり方」や「買物公園を利用する場合の手続の簡素化」、「無料駐車場の整備」などの意見があった。

意見の要旨	
買物公園のあり方等に関する意見	<p>駅から北方面に向かって歩く流れが悪く、シャッターを閉じている店も多いため、途中で引き返す観光客もいる。信号が変わるタイミングを調整するなどして、旭川駅前から手の彫刻までノンストップで歩けることが理想。歩行者と同じ速度ではないが、駅前から常磐公園まで、ランナーにとっても良いコースになる。</p>
	<p>インターネットの普及など利便性の向上によって、まちなか以外でも買物ができるようになり、生活基盤が成り立っている。買物公園で買物をする時代ではなく、あり方を変えても良い。</p>
	<p>三井アウトレットパークのように買物できるショッピングモールを郊外に集約し、これからの買物公園は、子育て支援施設やアクティビティが出来る場所に変えていくべき。</p>
	<p>買物公園の開設から50年が経過し、このままでは駄目なので見直しが必要。今後のあり方について、市民を集めて何度も意見を聞くべき。市民からの提案が必要。</p>
	<p>買物公園は、市の人口40万人を目指しているときにできたもの。全盛期は人通りも多く、旭川の知名度の向上に貢献するなど効果は大きかった。今後は、人口が減り若い人の購買力が落ちている時代であるという考え方に立つと、8条まで続く長いものが今後も必要であるかについても検討していかなければならない。</p>
	<p>買物公園は、エリアごとの特徴を生かし、駅に近い部分は住むところ、それより北は商業を行うところ、4条以北は市民が活動できる場所など、効果的なゾーニングができれば良い。旭川でしかできないような特色のある場所にできると良い。</p>
	<p>芝生のスペースが買物公園の所々にあると良い。また、空き店舗や駐車場を活用して、会議室などを備えた市民が集まるような場所があり、買物公園が買物だけではなく、市民が多様な活動を行うことができる場所となるよう進めていければ良い。</p>
	<p>買物公園を初めて訪れた人は、これほどの大きな通りをゆっくり歩いたのは初めてという感想もある。ゆっくり歩いて、旭川の豊かな四季を楽しむということも重要なコンセプトであり、個性を生かせると良い。</p>
	<p>民間投資による内需停滞や、JR北海道の宗谷線・石北線の維持困難線区公表などにより中心市街地の意義が問われている。危機感と課題は山積しているが解決に向けてとても難しい状況。今年市制施行100年を迎え、振り返りの節目に当たる年。また、平和通買物公園の開設50周年のセレモニーが行われ、「あの頃はよかった」から、「これから先どうしていくか」の市民議論が始まっていない。</p>
	<p>旭川の現状について焦りをもって、市民と共有する必要がある。危機感がなければ価値は下がる。無関心はよくない。</p>
	<p>旭川はれてが開業して、賑わいを見せているが、今後の買物公園活性化を考える上で、再開発の計画を考えていく必要がある。</p>
	<p>このまま恒久的な歩行者専用道路であることが望ましい。</p>
	<p>旭川は文化的で都会なのに緑もある北海道らしい場所であり、札幌との違いもある。歩行者天国は大事な場所なので何としても現状を維持すること。</p>
<p>イベント参加者からまちづくりに関する様々な意見が寄せられた。足湯、ハンモック、キャンプの場の提供などのんびりしたいという意見が圧倒的に多く、まちなかでの遊び場が必要と感じた。緑があれば交流したいという人からは、旭川はれての敷地に芝生ができたことが嬉しいという意見もあり、まちなかで緑が見られて、ほっとする場所づくりが買物公園やまちの活性化に繋がると思う。何よりも人を優先させるのが旭川の魅力。</p>	
手続に関する意見	<p>買物公園にキッチンカーを乗り入れするイベントを行うためには、ドライバーかオーナーが直接警察と土木部に道路使用許可等を提出する必要があるため、市への申請行為のみで手続きが可能になるよう簡素化してほしい。保健所の臨時営業許可は1週間以内などの決まりがあるため規制緩和が望まれる。</p>
	<p>買物公園におけるイベント開催手続きを簡素化しても良いと感じている。市及び警察との複雑な手続きが必要で、かつ前例がない企画については認められない傾向が強い。「道路」であるために様々な制限が生じるのであれば、扱いを見直しても良いと思う。</p>

意見の要旨	
駐 車 場 に 関 する 意 見	今の買物公園には、駐車料金を支払ってまで買物したいと思える店はない。旭川市民は駐車料金をとても気にするが、無料駐車場を整備しても利用されないのではないかな。
	昔は買物公園には多くの人出があったが、郊外型の店舗が増え、買物公園には人が訪れなくなった。今の買物公園の店舗には、行く目的もなく、駐車場も整備されていない。
	買物公園に来やすくするために、交通の便を良くすることと合わせ、例えば4条以北に無料駐車場所を設けることも考えていく必要がある。
そ の 他 意 見	昔は賑わいがあり良かったという人と、この辺りはとても面白いという人に分かれる。
	東京から来た方は、これだけ伸び伸びしたまちはあまり見たことがないという。当時の五十嵐広三旭川市長が提唱した「車社会からの開放」「人間性の回復」という施策のとおりとなっている。最近ではオープンテラスが設置されるなど良い取組が増えてきた。
	買物公園は、旭川のアイデンティティを象徴する空間。昔は遊具が数多く設置され、その名のとおり公園のようであったが、今は公園らしさは残っておらず、子どもの遊び場でなくなった印象がある。
	昔に比べると賑わいが少ない。子どもの頃はデパートのレストランに連れて行ってもらったり、友達とまちなかに出かけることにワクワクするなど特別感があった。
	銀座商店街は店舗が減り空地が多い。サンロク街の台所として元気があるのは数店舗。
	高層マンションの建設が進められ居住地区になっていく印象。地権者は安く土地を切り売りするなど、出店希望者を後押しできる環境を整えることが理想。
	札幌狸小路や小樽都通りのようなアーケード街になれば年中イベントが開催出来る。この場所で開業したいと思う人も来るかも知れない。
	スマートフォンの普及により、買物の仕方や楽しみ方が変わり、デパートも閉店している。4条以北も元気がなく、状況は悪いと感じている。
	昔の中常盤地区は、そこから何処にも出る必要がないくらい何でも揃っていて、賑やかで大都会だった記憶がある。
	当時買物公園の開設は世界的にも大きなニュースになっており、郊外にスーパーのようなものはないので、みんながまちに集まっていた。
	昔を知る者にとって今の状況は淋しい。商店よりも飲食店が増えているのは時代の流れで仕方のないこと。
	買物公園は過去の改修工事により真っ直ぐな道になり、遊具がなくなるなど残念な思いをした。一部の花壇だけは残してくれたのが救いであり、地域や来訪者に喜ばれている。
	人口が減っていく時代で若い人に購買力がなく高齢者の購買力に頼らざるを得ない状況。
	若い人を中心に、これまで通ることがなかったような人たちも通るようになってきており、旭川ははれてのオープン効果により、新たな人の流れが出てきていることを実感している。
	手の噴水が買物公園の入口付近に移設され、買物公園の入口を塞いでいるように見える。
	3年前から旭川まちなかマネジメント協議会が中心となってオープンテラスを実施しており定着させていきたい。常設のベンチがもう少し増えると良い。取組を継続するには、協力してくれる店舗が増えることが望ましい。
	冬期間において、雪のテーブルや椅子をつくり、ドイツやベルギーのように、そこでホットビールを楽しむことができるようになると面白い。
	昔は何の用事もないのにまちなかに出かけて最高に楽しかった。今のまちは見た目は良くなったが活性化していない。
氷点橋とクリスタル橋が出来たことにより神楽地区とまちなかが近くなったが、高齢者は歩いて買物公園に行くことが出来ない。旭川医大までを繋ぐバス路線も削減され、路線維持について要望している。	
行政で作った公共施設が「作って終わり」という状況になるのは仕方がないが、民間投資でもそのようなことが起こっている。	
まちなかに用事がなく、あったとしても行く場所が一つしかない。本来刺激があるはずの中心部に目的がない。自己実現できないから若い人が流出する。	

## ② 自動車の通行に関すること

買物公園や銀座通での自動車通行に関しては、場所や時間を区切って通行させることに肯定的な意見のほか、「賑わいにつながらない」、「歩行者専用道路の維持」などの意見があった。その他無料駐車場の整備等に関する意見があった。

意見の要旨	
肯定的な意見	時間や場所を区切って走らせることは良い。
	歩行者が少なくなったこともあり、東京の銀座通りの歩行者天国のように、曜日や時間、場所を区切って車を走らせるべき。車を通せば何かが変わる。一度に進めると問題が起こるため、4条以北から規制を緩和していくことが望ましい。
否定的な意見	過去に東海大生とまちなかの将来モデルをテーマにした「まちの模型」を作成した際、公共交通にトリムバスの導入といった意見が挙がった。車両は通行させない方が良い。
	自動車を通すイメージは、ほとんどの人が持っていないのではないか。
	車を通行させることで、まちの賑わいづくりに繋がるとは考えられない。沿道の店舗や利用者にとってメリットは感じられないと思う。
	自動車は通さない方が良い。
	先人達が大変な思いをして築き上げてきた歴史がある。元に戻すことは時代に逆行する。
	現状の歩行者専用道路を維持すること。時代に逆行しており、全面的に反対する。
その他意見	4条以北は自動車を通してほしいという人もいるが、買物公園に停車して沿道店舗に入る使い方はないと思われ実行するメリットは少ない。
	過去、銀座通りでも車を通してみてはという意見もあった。
	買物公園にも駐車場もあった方が良いが、大型店には大きな無料駐車場があるため、効果は弱い。通行に支障が出ないような路上駐車を認めるという思い切った方法もあるが実現は難しい。
	ドイツのフライブルクでは、市街地の外に無料駐車場を整備して、市街地内への車の乗り入れを禁止するなど徹底した施策が進められている。
	駐車場を整備しても、魅力のあるお店がなければ人は来ないし、魅力のあるお店が増え、人がたくさん来ると駐車場が足りなくなる。このように、駐車場については、「ニワトリとタマゴ」のような問題をはらんでいる
車を走らせるより、魅力のある店が必要。今後は、車に乗れなくなる高齢者が増えていく。	

## ③ 電動キックボードの通行に関すること

買物公園（又は銀座通）での電動キックボードの通行に関しては、「買物公園を変えるきっかけになる」、「若者が集まるような取組は歓迎する」などの肯定的な意見のほか、「危険」「冬期間は乗れない」などの意見があった。

意見の要旨	
肯定的な意見	歩行者との通行帯の区別が必要。後方から近づかれても分からないため、走行の際は乗り物から音が出る仕組みが必要ではないか。
	今の買物公園を変えるための切っ掛けとしては良いと思う。駄目なら元に戻せば良い。
	観光客向けに、キックボードで移動できるエリアを区切って体験できるスペースを設けるということであれば、考え方としては理解できる。
否定的な意見	若者が集まれるような取組は歓迎する。買物公園に場所がなければ神楽地区において、キックボードを走らせたりスケボーパークを整備してはどうか。その際は自転車の駐輪場と駐車場も必要。
	電動キックボードの導入は歩行者にとって危険だと感じる。
	キックボードの導入について、道外ではシェアリングサービスなど実施されているが、道内では冬期間の運用に課題がある。
	電動キックボードよりも、まずは自転車を通すことが優先。キックボードは買物公園ではなく、緑橋通りや昭和通りを走らせた方が良い。
何のために電動キックボードを走らせようとしているのか。レンタサイクルのように楽し	

意見の要旨	
	む手段として導入するのであれば、駅前と北彩都エリア内で十分。危険なイメージがあるなら安全な場所で実施すれば良い。
	危険な乗り物のイメージがあり、事故が心配。買物をした荷物を持ち運ぶと不安定になる。若者向けなので、スマホを操作したり、イヤホンを使って音楽を聴きながら走行するという懸念もあるが、自転車と同じ感覚で街中に普及している状況であれば良いのかも知れない。
	銀座への乗り入れは、路面の凸凹により不向き。
	キックボードも自転車も走行速度を6km程度に制限するなどルールを明確化しなければ危険。
	買物公園で導入されたら、怖くて年配の人はまちなかに来なくなる。のんびりと散歩も出来なくなる。
	中心部で子供が遊べる場所はここだけであり、キックボードの通行は怖い。お年寄りの居住エリアでもあり、高齢者を含め多くの年齢層の人が歩けなくなる。買物公園の良い所はロードヒーティングも入っており、散歩やランニングが出来ること。キックボードの導入は現実的ではない。
	老人はキックボードに乗ることができない。元気がある人たちだけが楽しめるまちでは意味がなく検討・実施する必要はない。買い物してもリュックがなければバランス良く乗車できず、暮らしと結びつかない。転倒などにより乗り物だけが走って人とぶつかる恐れはないのか。リスクも含め、よく調べた上で導入しようとしているのか知りたい。
	キックボードは冬期間は走行が困難な上に、自転車より安定していないし、価格も高く、自分で買う人はあまりいないと思う。
	キックボードの通行については期待していないし、買物公園の理念とも合わない。買物公園は、ゆったりと歩き、のんびり飲食などを楽しんだりすることに適した空間であると考えており、そのような雰囲気は守っていきたい。
	常磐公園を目的地にするなど、アクティビティとして成立するのか。危険なイメージもあり年配の方が扱えるのか不安。
その他意見	駅前から常磐公園に隣接した石狩川河川敷地まで繋がるような専用道を設け、レンタル利用できると良い。
	市長は注目を集めるためにキックボードを導入したいのか。まちなかへの来街者を増やしたいのであれば、約1kmの距離を歩けないのは子供と老人なので、ベンチやブランコなどの遊具を設置して、歩きやすい歩行者天国にすべき。
	キックボードを導入するのであれば、緑橋通りなどで歩行者と区分できる専用レーンを設けた上で、歩く速度よりも遅く、お年寄りでも搭乗できるスローモビリティが望ましい。駅前から常磐公園やサイバルまでなど観光ルートとして使う方が合っている。
	試験的に進めるのであれば、速度制限をかけて徒歩程度のスピードで実施すること。その結果、近隣住民や地元商店会の反応を諮ってはどうか。買物公園をより良くするという意義・目的を持ち、まちなかにインストラクターを配置して検証することで、ただ危ない取組だったと嫌われて終わる事がないように考えてほしい。
	大人が決めた議論を押し通すのではなく、次の世代によって大人が持っている課題や議論を考えてもらう必要もある。(買物公園での自動車の通行など)
	市長公約で買物公園の在り方を変えるために実施しようとしているキックボードの導入について、単にモビリティの乗り入れをゴールにしてはいけない。その取組がサステナブルかどうか、旭川を訪れるビジネスマンや観光客はそのような視点でまちを見ている人が多い。中途半端な取組では旭川の品格や民度が疑われる。懇談会等を実施するのであれば、何を議論していくかが大切で、好き勝手なことを言わせて終わりではなく、行動に移せたら良い。



#### ④ 自転車の通行に関すること

買物公園等での自転車通行に関しては、歩行者と分離するなど条件付きで通行することには賛成など、通行に肯定的な意見のほか、「危険」との意見があった。その他レンタサイクルなどに関する意見があった。

意見の要旨	
肯定的な意見	買物公園は歩行者天国であるべきだが、自転車を通すことには賛成。
	スピードを出して自転車に乗る人が多く、路面店から出るときに轢かれそうになったことがあり危険性を感じる。ただし自転車はエコなので、専用レーンを設置すれば通しても良い。駐輪場も満杯になるので、有料でも良いので駐輪場を整備してほしい。
	自転車を通すことで雰囲気が変わる。令和5年度からレンタサイクル利用者を対象に、行き先などニーズ調査の実施を考えている。
	フランスのパリやオランダのアムステルダムのように、旭川を自転車のまちにしたいと考えている。自転車専用道を整備し、駐輪場も必要。特に通学で自転車を使う高校生にどう利用させるかの検討が必要。子ども達は常に居場所を探しており、何処に行くにしても自転車であるため、安全に利用できる環境整備が望ましい。
否定的な意見	自転車が買物公園を走行するのはとても危険。信号無視も多く見かける。店舗から客が出る際など、これまで接触事故が起きていないのが不思議なくらい。中央付近を線引きして、歩道走行禁止ルールを徹底させるのであれば歩行者と共存できると思う。
その他意見	自転車やスケボーなどについては曖昧さを残し、グレーな場所であって良いと思う。4条以北において自転車に乗って通行する人はかなり多い。
	札幌で導入しているポロクルは電動アシスト付自転車を導入し利便性が更に向上した。旭川においても中心市街地を網羅する形でポートを設置し、当エリア（愛別・上川・鷹栖・当麻・東神楽・東川・比布）を繋ぐ観光移動手段にできたらと感じる。
	旭川観光物産情報センターにおけるレンタサイクル事業が好調。地元市民が常連となって、まちなかの移動手段として使用するケースも多い。駅から市役所や道の駅など、歩くには少し遠いエリアへのニーズもあるのではないかな。
	銀座通も歩行者専用道路のため自転車の走行は禁止されているが、実際には乗り入れもある状況。これまで事故は起こったことはない。
	駅構内のレンタサイクルを利用して買物公園の北側まで来る人はいない。レンタサイクルを使ってこのエリアに来ないのに、電動キックボードのニーズは更に少ないものと思われ、税金の無駄遣いになる。
	自転車の通行にはグレーな部分も大事。曖昧なところから若者文化が出てくることもある。全ての取組に対して現状維持を望んでいるわけではないが、大きなシステムの変化までは望んでいない。
サイクルポートや電動キックボードのポートの管理事業を実施することがあれば、定年退職者等を従事させるのではなく、目的を持った生きた仕事として目指したいと思えるようなフレームづくりに繋げていく必要があり、そのためには行政が民間を育てるための支援や、半官半民のアクティビティセンターの設置が必要。	

#### ⑤ イベント開催に関すること

買物公園等でのイベント実施に関しては前向きな意見が多かった。一方で道路使用等に関する手続の簡素化に関する意見があった。

意見の要旨	
買物公園での音楽大行進などのイベント開催はその機能が活かされる。アフターコンサートでも多くの人が集まり、旭川駅から市民文化会館まで同時にコンサートを開催することができた。他の地域、エリアでは出来ないこと。	
まちなかで暮らしている人や店舗を構えている人は自分たちがまちなかを活性化させるという意識がない。特に5条以南は積極性が少なく、自分たちが主体的に参画してまちを盛り上げる意識が低いように感じる。地方から移住してきた人のほうが意識が高い。	

意見の要旨
自由に使いたい時に許可が下りないことが多いと感じる。まちの賑わいづくりのために手続きを簡素化してほしい。
旭川ミュージックウィークのような大規模イベントも良いが、常に小規模音楽イベントなどが開催されると良い。その際は参加料を支払えば誰でも出演できる形にするのではなく、一定レベルの演者に制限することで、参加者のモチベーションやイベントのステータスを上げていくことに繋がっていくと思う。
市で開催したスケボーイベントには多くの人が集まったが、普段は練習する場所がなく、買物公園や北彩都ガーデンを利用すれば苦情の対象になる。同じストリート系のイベントとして、雪板を貸出し、まちなかで体験してもらうことを考えているが、専用コースの整備や、安全面に配慮したスタッフの常駐など課題があり、運用に二の足を踏んでいる。
食べマルシェや冬まつりなど多くの人が集まるイベントは一過性の傾向が強い。その期間中は市内のホテルが満室になるため、旅行会社へのプロモーションも上手くいかない。地域に長く滞在してもらうために、層雲峡温泉の渓谷火まつりのようなロングランイベントが必要で、閑散期に開催することでホテルの稼働率も上がると思う。
ダンスイベントは関係者を含め、多くの人が集まる傾向にある。ダンスの勢いに「よさこい」が押され、新しいメンバーが集まりにくいようだ。
ICTパークで怪談話のイベントを開催した際、その界限で有名なYouTuberが出演し、チケットは完売。参加者の半数は、札幌その他地域から訪れ、イベント内容によっては札幌圏からの集客が可能であることを実感した。SNSの普及により、テレビに出演している人だけが有名人ではないと考える若者が増えている。
4条以北・以南の人流に違いがあるように、駅の北と南で賑わいが分断される傾向にある。北彩都のガーデンセンターでイベントを開催した際、同期間中の食べマルシェ来場者の周遊を期待したが人出に繋がらなかった。駅を境界にイベント自体を切り分けた方が良い場合もある。
烈火七夕祭りなどの開催を通して、警察など関係機関との協議に大変な思いをしたことがある。平和通買物公園は道路から外し、イベント等の開催制限をなくしていくべき。
買物公園の中央幅を広くとり、札幌大通公園で開催しているトヨタビッグエアのような、振り切ったイベントが必要。
旭山動物園の強みを活かして、買物公園に簡易的な動物園を設けることで、更に魅力を発信できる。
花フェスタはインパクトが薄い。美瑛や富良野に負けないような華やかなイベントに振り切るべき。予算がなければ2年に1回の大規模開催でも良い。
買物公園に車両を通しつつも、曜日や時間帯を調整ながら規制をかけて、これまでのイベントを継続していくべき。
上川神社祭は、銀座仲見世通りを含む3条通から常磐公園に場所を移して開催するようになったが、以前の場所に露店を出し続けるべきだった。
イベントはあると良いが、新たな取組などは道路管理者や警察からの許可が下りないことがあるので規制緩和してほしい。イベントで設置するテントをもう少し洒落たものにするだけでかなり雰囲気が変わる。このままでは許可権者への不平不満が募るばかり。
あさひかわ街あかりイルミネーションは、ロータリーから旭橋にかけての景観が連携されていない。雪国が広く大きく見える暖色系イルミネーションは観光資源になるので、オレンジ色のLEDエリアとしてストーリーをつくっていくために、キャンドルを販売した利益を充当し、賛同者を増やしたいという構想がある。
石狩川の河川敷を使ったマラソン大会が開催されたが、沿道まで人が訪れずがっかりした。旭橋を通過してまちなかを抜ける際など、花壇を充実させることで景観を向上させることができる。
常磐公園にキッチンカーの出店が試行されたことなど、とても良い取組だが周知が行き渡っていないと感じた。テーマによって、告知や発信の仕方を変えるべき。
買物公園では多くのイベントが実施され、行政が協力しているケースも多い。銀座は自力でイベントを開催することが多いため、もう少し行政の支援がほしい。
商店街のメンバーが減少し、高齢化も激しくマンパワーが不足している。コロナの影響でイベントが開催できない期間が続いたので、関係機関の協力も含めて今まで通りに開催することが難しくなっている。
食べマルシェの開催について、人が集まらなければ商売にならないが、商店街各店舗の売上げに結び付かなければ意味がない。
銀座通りに15台ほどのキッチンカーを集めるイベントを企画して道路使用許可の協議に望んだが、警察協議が不調に終わり最終的には三番館の駐車場で実施した。市の後援を得ることで許可を得やすい場合もあることを知ったので、次回に繋げたい。
飲食主体のイベントや、イベント会場における飲食の出店は強みがあり、食べ物がなければ人が集まらないとも言える。キッチンカーのイベントは最も手っ取り早く、テントの設営やゴミの

意見の要旨
回収も不要。行政からの補助があると助かる。
イベントを一生懸命企画しても人が来ない。市の予算が出るからイベントを開催するという感じで、自費を捻出して頑張ろうという商店会はごく僅か。自分のお店のごとで精一杯だと思う。
40年以上続いている本屋は全国でも3店ほど。こども富貴堂は漫画や雑誌を置かずに45年間経営している奇跡のような本屋で、旭川のインフォメーションセンター、カルチャーセンター的な役割も担っている。
2ヶ月に1回はイベントをしているが、人を集めてやろうとしても時間がかかり纏まらない。
イベント開催費用を捻出するのは難しく、助成金の申請も手間が掛かる。市から予算を出してもらうことが一番良い。富良野の団体は、企業から協賛金を集め、音楽家や落語家、芸者などを講師として招聘し、小学校に様々な教育を提供している。
旭川青年大学を止めてしまったのは非常に勿体ない。10年先のことを考えて、学生など若い人に手伝ってもらって体制づくりが必要。
市職員の頻繁な人事異動により、地域との深い関係性が根付かない。10年間責任を持ってやるくらいの信念と、イベント担当の係がほしい。
いくつかの新しい取組は評価できるが、周知等の努力が集客につながらない。活性化に必要なイベントを開催する場合は、専門家のアドバイスを必ず取り入れるなど、組織体制の改善や、新しいアイデア、情報共有等が必要ではないか。
人口や市場が小さくなる中で、昔のような賑わいを取り戻すのは現実的ではない。如何にしてまちなかに人が集う日常、集える場所を用意していくかが重要。
旭川はれて内のガーデンのように、使用許可が不要な場所があれば自然と人が集まってくる。道路使用に係る手続きをたらい回しにされることが多く、もう少しスムーズにできるようにワンストップ窓口があれば良い。
買物公園は「旭川市民のステージ」でもあると考えている。ライブや路上パフォーマンスにどんどん活用されて欲しい。ドイツのオクトーバーフェストにならば、例えば、セプテンバーフェストを食ベマルシェの後に開催するなど、そのようなイベントもできたら良い。
買物公園や平和通商店街ばかりに補助するわけにもいかないと思うが、イベント支援もぜひ検討してもらいたい。視察などで参考となるものなどがあれば共有してもらいたい。
イベントは、あくまでも一過性のものであり、買物公園の賑わいを継続するためには、個性のある魅力的な店をどのように増やしていくかということが重要。
ゆっきリンクは今後も継続してほしい。駅を挟んでスケートリンクとクロスカントリーコースがあるのは世界でも旭川だけなので、日本国内だけではなく世界にもアピールしていけば良い。
氷彫刻世界大会の実施時期に合わせて、子どもたちが楽しめる小さな雪の滑り台を設置したり、かまくらの中でホットビール等飲食を楽しめるようにするなど、今あるものと新しいものを組み合わせた取組も面白いと思う。
冬を活用した取組をもっと外に発信していければよい。
イベントを開催しても騒音で苦情が出ることもあるが、積極的に進めた方が賑わいづくりに繋がる。買物公園で多くのイベントを開催することを考えると自転車やキックボードの規制は必要。
先日実施した鏡池でのカヌー体験など、まちなかで新しいアクティビティなどができたら良い。
神楽地区で30年以上開催している花火大会は、市内外から多くの人が訪れる人気のイベント。
日本宝くじ協会の助成事業により、旭川の歴史を知るツアーや親子を対象としたイベントを開催したことがあるが、子どもの参加者が不足している。
商店街の青年部で、イベントを色々考えて実施してきたが、40代前半までの人材が少なく、商店街だけでは大変厳しい状況。これまで、買物公園に年1回しか来なかった人が月1回来たり、月1回しか来なかった人が週1回来るような取組が必要。

## (2) 中心市街地の活性化について

### ① 活性化に必要なこと

中心市街地の活性化に必要なことに関しては、目的づくりや場所づくりのほか、市民が主体となったまちづくり、情報発信等、様々な視点での意見があった。

意見の要旨
中心市街地の活性化には商業的なものだけではなく、社会・福祉的支援によるまちづくりが必要。まちづくりは食べマルシェのような非日常と日常から成り立つ。人との繋がりにより、日常生活をどれだけ充実させるかが重要。
お金を使わずに誰かに出会える場所が必要。学校や家族だけではない誰かと繋がる場所として、昔であれば商店街がその機能を担っていた。これから大切なのは人との繋がりを持つことで、まちづくりのデザインにどうやって入れていくか。
若い人が旭川に誇りを持ち、旭川を離れても故郷を思い続けるようなまちづくりが必要。屋外ライブなどパフォーマンスが自由に出来る配慮をお願いしたい。
自分たちが主体となって、まちづくりに参画していく意識をどのように高めるかが重要。
まちなか景観の統一が必要。買物公園のベンチ周りに設置しているフラワーフォトスポットにて写真を撮影するにしても、まちなかには様々な色の看板や建物が乱立しているため、全体的に絵にならない。
新型コロナウイルス感染症の影響もあり外国人観光客を見かけなくなった。インバウンドばかりを考えても不安要素が大きいので、地元の人と国内観光客を大切にしなければならない。
市民よりも観光客の方が旭川の良いところを知っている傾向にある。市民自らが旭川のまちを知ることが必要。
銀座商店街は小規模であるが多くの来訪者がある。特色ある商店街を目当てに訪れる観光客もいるので、人を呼び込める商店街を前面にしたまちづくりが出来ると良い。まずは市民が楽しめる場所であって、観光客にも広がっていくのが理想。
中心市街地活性化基本計画で設定している3つのエリア（旭川駅前・平和通北・大成）でそれぞれ違いがあるが、目的によっては一つのコンセプト、まとまった地域づくりも必要ではないか。
有料駐車場は数多くあるが、駐車料金を払ってまでまちなかに訪れる動機付けは難しく、市民がまちなかを普段使いできる発想が必要。郊外に比べて特に買物公園では対面販売や娯楽施設が少なくなっている。まちなかに行けば何か楽しいことがあるといった意識付けが重要。
まちなかに興味がなく、フィールなど建物の名称を知らない学生も多い。賑わいづくりには、まちなかに行くための目的をつくるしかない。買物公園が買物をする場所ではなくなりつつある中、公園機能を強化すべき。
テーマがあれば人は来る。中心市街地のエリアは広いので、それぞれの個性が必要。買物公園には、路上に設置したビールケースに客を座らせている飲食店がある。冬はたき火を囲んでホットワインを楽しむような特色あるエリアを設定するなど、アイデア出しと規制緩和が必要。
モノよりもアクティビティのような体験できるコトを進めることで、旭川に人が集まる。
デザイン都市として、まちなかにもっと芸術を取り入れるべき。多くの芸術家が旭川に興味を持って訪れることにより、更に魅力あるまちになる。地場産業である家具づくりに芸術家を掛け合わせることで、キャンディハウスなどのブランド化が更に進められる。
旭川は住みよい町であるが、一番と主張できるものが少ない。中核都市である旭川の最大の強みは、自然が多いことで、アクティビティと融合させることで凄いまちになる。
旭川の文化や伝統、施設などを知らない若者が多い。もっと強く、幅広く情報発信すること。
中心部の固定資産税が高ければ出店・建築のハードルは高い。税を減免すると他から不平が出るので、補助するのであれば、特定の場所一帯を安い税率に設定したり、助成金を給付する。
駅から4条通までは活性化しているが、ポテンシャルが高いのはロータリーから旭橋のエリア。当該地域は中心市街地活性化基本計画における平和通北エリアに該当するが、買物公園に面していないこのエリアは切り離し、景観を重視した特別な場所としてモデル地域になっても良い。
賑わい創出のイベントを実施しても中心市街地の活性化に結び付いていない。地域住民と一緒に活動を継続していくことが、いずれ活性化に繋がる。
目に見えるものではないが、イベントを開催することにより多少のリピーターに繋がることはあると思う。SNSによる情報発信は重要。
中心市街地に指定しているエリアが広すぎる。駅前周辺と神楽地区が妥当ではないか。
どのまちでも成功しているのはカリスマ的な個人。リーダーシップを取る人が必要で、黙っていても市民は活性化しない。
まちが元気だということを見せるには、高校の運動部に除雪させること。学生にとっても市民と接する機会も増え、高齢者にも喜ばれる。除雪の手伝いなど地域と関わりを持つことで、永住を決めた社会人もいる。

意見の要旨
市職員がまちに出て、市民と話し合うこと。新聞社を味方に付けるように、市民にも頑張っていることを分かってもらう。「活性化の主演は市の職員とみなさんです」とすべき。
旭川駅を活性化させることが必要。そのためには駅構内に市民課を設置し、市の仕事を見せる。JR旭川駅と旭川市の活性化は両輪のようなもの。
イタリアでは都市の森林化によるまちづくりが行われており、世界にも広がりを見せている。旭川でも空き地を緑化するという戦略もある。それぞれのエリア毎で望む姿を尊重してほしい。
中心市街地の現状は、政治の影響も大きく受けている。90年代頃までは大規模小売店舗法があり、同法により百貨店やスーパーなどの大規模な店舗の出店が規制されていたため、大型店と商店街が共存できていたが、同法が廃止されて以後、大型店の郊外への出店が進み、中心市街地には厳しい状況が続いている。
丸井や西武が撤退したことをはじめ、最近ではマルカツが閉店、オクノも店舗を縮小するなど、厳しい状況が続いている。一方でツルハビルやタワーマンションの建設、旭川はれてのオープンなど新しい動きも出てきている。
これからは、大型店にはない個性的な店がどんどん増えてくれれば良いと考えており、市としても、個性的な店の出店を補助するなどの支援を検討してもらえるとありがたい。
インバウンドが戻ってくることを見越し、商店街として、スマホの翻訳アプリの使い方をみんなで見えるような取組も進めている。
公共交通について、寿バスカードの自己負担分の無料化をぜひ継続してほしい。高齢者が買物公園に来ることも多くなり、ニーズに沿った出店も期待できる。
今年度実施されたバス無料の日には、高齢者に限らず、無料だから買物公園に来てみたという人も割と多かった。まちなかに来るきっかけづくりとして効果的であったと思う。この流れが更に発展して、まちなかに来れば誰かに会えるというような雰囲気が出てくれば良い。
駅構内で実施しているストリートピアノをアッシュヤ4条以北に設置すれば、なにかと話題にもなるし、音楽のまちとしてのアピールにもなる。
中心市街地活性化基本計画には、持っている資源を有効活用するというだけでなく、「何をやるのか」まで踏み込んでいく必要がある。
大型店に太刀打ちできるような魅力ある商店街の存在が望ましいが、現実的には難しい。特徴的な店舗が増えていけばと思う。
シンプルに生活の基盤を整え、人が住みたくなるような暮らしやすさをつくる必要がある。首都圏で暮らしやすいと言われている地域は、生活に必要なスーパーが建ち並んでいるところ。デパートが撤退したことでフィールや七福ビルの八百屋などは貴重な存在。
日中は散歩をして楽しむなど、それぞれの時間帯による魅力を考えるべき。本来の使い勝手が具現化されるまちになること。
活性化とはその地域に魅力を感じることであり、来てくれること、そしてそこに住める環境にあることだと感じている。
地域の高齢者割合が増え、車がなければ何処にも行けない状況になっている。活性化には駐車場が必要であり、寿バスカードを持っている高齢者は駐車場が無料になるなどの仕組みを作ってはどうか。
活性化の指標に、小学生などの若年層の居住者がまちなかに何人いるか把握してはどうか。子ども達の趣味やほしいものなどデータを取って、若者への施策を手厚くすることで、市外への人口流出減にも繋がるのではないかと。10～20年先の未来を見据えて、その時に中心となる年代の意見を聞いた方が良い。
地域外で商売している人や若者たちによって、まちなかを課題解決の場として着目してもらい、半分はビジネス、半分は社会活動として関わってもらい、余所者の新しい視点で、このまちに足りない価値観を持ち込んで欲しい。今のやり方では八方塞がりでは成果が出ない。プレイヤーのモチベーション維持も大変。
道内他都市をリサーチしており、新幹線の延伸・鉄道網の拠点、2030オリンピックの開催等による商業への影響など、中心部の意義を押し量るには良いサンプルになる。釧路では中心市街地の空洞化が顕在化しており実害が出始めている中、廃ビルや空きテナントを逆手に取って資源とする「廃墟ツアーIN釧路」など実施されている。
大型店の存在が驚異として取り沙汰されているが、同店の知恵や手法を共有し、共存していくべき。彼らも常にこの街のことをリサーチしている。
旭川はデザイン都市なので、しっかりとした設計が必要。旭川は第七師団の歴史や北鎮記念館など貴重な財産を持っているので、他地域との差別化を図ることができる。中高校生向けのゲスト講師をしている場で、なぜ家具づくりが旭川に根付いているのか、なぜその仕事に従事しているのか、旭川の産業やその発展してきた歴史に触れるとリアクションが良い。
札幌市では、建築家の隈研吾氏を囲む「さっぽろ未来まちづくり懇話会」が発足した。北海道ファシリティマネジメント協会が関係しており、旭川でもファシリティマネジメントの考え方を

意見の要旨
取り入れながら、まちづくりを進める必要があると考えている。旭川では、市役所新庁舎が来年秋に完成することもあり、例えば新庁舎落成を記念して、隈研吾氏に講演をしてもらいたいと思う。
今後は、まちなかの居住を増やしていかなければならない。この先、更に高齢化社会を迎えるので、例えば、緑橋通に電車を通すなど公共交通機関の充実も必要と考える
活性化には、買物公園の環境整備や、商店街活動の活発化、行政との協働が必要。

## ② 整備が必要な施設はあるか

整備が必要な施設については、駐車場やスケボーパーク、屋内遊戯施設等のハード整備のほか、人づくりやコンテンツ、アクティビティ、既存施設の利用をしやすくするなどのソフト施策に関する意見があった。

意見の要旨
市庁舎における防災備蓄や、企業との連携協定による災害時の補助などもあるかと思うが、準公共スペースにも災害備蓄用品の保管など防災機能を持たせる必要があると感じている。
施設があれば良い訳ではなく、人と人を繋げるコーディネーターを色々な場所に配置することで、まち全体がもっと暮らしやすくなる。訪れる人の話を聞いて、公的機関等との中間を補完する機能が市内各所があればと感じる。
文化資本の格差が危惧されている。解決するには子どもの頃から芸術に触れる必要があり、ものづくりの経験によりものを見る力を養える。学生が大人と交流できる場が必要。
女性と子どものための施設、特に授乳施設など限られた施設にしかない。
まちなかに学生が少なく、行く場所がない。将来大人になって自分の子どもをまちなかに連れてくるようなサイクルがなければ、まちの発展に繋がらない。学生はフィールやイオン、駅構内で勉強しているが、空き店舗等を利用しないと買物公園に学生は集まらない。安心して利用できる、ドリンクの提供やスマートフォンの充電ができる「たまり場」のような施設が必要。
4条以北はテラスセットの設置でかなり雰囲気は良くなったが、若者がワクワクする施設がない。綺麗な照明を設置するだけでも更に変わってくるのではないかな。
現在の街路樹は、花は咲かず実もつけず、あるのは落ち葉くらい。街区毎の違いや四季を意識したり、旭川の木であるナナカマドを植えても良いのではないかな。
買物公園周辺は専用駐車場がある大型店の一人勝ちになっている。8条通辺りに市の無料駐車場を整備することで、4条以北に行く機会がなかった人にとって、周辺店舗などの発見に繋がると思う。多少遠くても駅方面に向かって歩く人もいるはず。まちなかで人が動くことが大切。
駅前から9条までの区間で何らかの学習コンテンツを整備してはどうか。既存施設のICTパークを上手く活かしていくことも必要。
買物公園沿線でスケボーができる場所があればよいが、常磐公園の使い方も検討した方がよい。沿線店舗や駅のガラスに映る姿を見ながらダンス練習をする若者もいる。ビル屋上や空きフロアを活用するなど既存施設の柔軟な利用も必要。「ウイングベイ小樽」では、地元陸上クラブの小学生が、テナントの埋まらない空間を冬季の練習場として活用した事例が話題になった。
フィールのこども向け屋内遊戯場「もりもりパーク」のような素晴らしい施設をもっと増やすことで、若者や子育て世代による賑わいに繋がる。
最近ではダンスを習うように、スケボーを習う子どもが増えている。川のまち旭川には多くの橋があるので、橋の下を利用して、雨天でも遊べるスケボーパークを整備できないかな。
コインパーキングのような場所で、いわみざわ公園野外音楽堂「キタオン」のような施設を整備し、市のイベントホールにしても面白い。必ずしも建物をつくる必要はない。
グランドホテルからOM07に変わり、大人数を収容できる会場が少なくなった。結婚式場のホールも他用途による利活用が始まっている。おびつたやCOCODEのような中規模の施設を整備することで、会合や学生の自習スペースに活用できる。
北彩都ガーデンはとても素晴らしい場所。キャンプ場として活用するなど既存施設を活かすことで更に面白くなる。
エクス跡地に建設中の複合高層マンションのように住宅をつくれれば、住民は必ず周辺店舗

施設・機能に関する意見

意見の要旨	
	で買物するので活性化に繋がる。7～8条辺りに同類の施設が建設されると更なる活性化に繋がる。
	旭川市北彩都子ども活動センターASOBI～BAのような若い人が遊べる場所や、おびったやCOCODEのように多世代が交流できる施設がほしい。
	商店街の滞在時間を延ばすため、四阿が増えると良い。
	観光客も含め、多くの人が使いたくなるような公共のトイレがほしい。
	緑道では日中でもスケートボードをしている人が多い。全面的に禁止・排除するのではなく、まちなかで一箇所に集めて出来る場があると良い。駐車場などを利用して、時間やルールを明確にした上でスケートボードパークを開設することで、若者の流れをつくることができる。
	乗り物を使った賑わいを考える前に、まちなかには座る場所がないので、トイレや四阿などの休憩施設を整備し、休み休みでも周遊性を広げていく必要がある。
	障害のある人が交流できる場がない。お金を払わなければ滞在できる場所がない。もりもりパークは幼児まで遊べるが、まちなかには小学生以上が遊べる場所がない。子どもの存在は、まちが元気になる起爆剤となるため、中心市街地にプレーパーク（子どものための冒険遊び場）を整備することにより、子どもだけではなく大人もまちも元気になる。その際に、母親世代の意見を取り入れることも重要。
	優れた施設は利用率が高く、駐車場が整備されている。定期的な遊具の交換や駐車場が整備されている公園は、環境がしっかり整っているから全市各地から人が集まってくる。
	常磐公園内の自由広場は、実際に色々と制限があるため全く自由に使えず、そこで楽しんでいる人を見たことがない。子どもが自転車に乗る練習ができたり、キックボードに乗れるエリアとして開放すれば、多くの人が集まる場所になると思う。
	コロナを境に常磐公園を訪れる人がとても増えている。インパクトのあるガーデンをつくり、自然が充実し賑わいが生まれることで、このエリアの課題となっている空き家対策の解消にも繋がる。
	木造建築が多く、空き家対策も課題。札幌市民防災センターのような、地震や消火体験ができるような施設があれば良い。
その他意見	買物公園5条から6条通辺りの路側帯に、観光バスが停車できるバスタッチを整備し、旭川はれてやラーメン店巡りなど観光客の回遊性を高める取組が必要。
	常磐公園を使ったアクティビティとして、自然体験を発信できないか。地元の人にもアピールして、誰でも好きな時に公園を訪れて掃除してもらい、落ち葉は堆肥として町内会が買い取るといったストーリーをつくりたい。
	まちなかに住んでもらうことを考えなければならない。中心市街地のアンケートについては、まちなか以外に住んでいる人の意見よりも、実際に住んでいる人がどう思っているか把握することが重要。
	まちづくりとは、どうやって人材を育てるか。指導者によっては良い結果を残していくことも可能。
	箱づくりだけが整備ではなく人が集まるような整備の仕方をする。楽しく集まれるようなソフトがないと、箱をつくっても無味乾燥。出来たものを再整備する必要があるのはJR旭川駅。
	休業・廃業している店舗において、土地と建物の持ち主が異なる場合があるので、新規出店や市街地整備の代謝を促すため、1年に1箇所でもいいので市で買収を進めてほしい。空き店舗情報の共有窓口となり、出店希望者に安く貸すなどの仕組みづくりも必要。また、出店者だけではなく、店舗兼居住地から退出していく高齢者が快適な場所に住めるような場所の斡旋や、補助金等の交付もあれば良い。
	2本の橋が架けられたことにより、一時地価は上昇して注目された。色々な施設はあるが病院がなく不便な思いをしている。車に乗せてもらって離れた病院を利用するケースが多い。

### ③ 複合施設、どのような機能が必要か

複合施設や機能については、中規模・小規模ホール、タワーマンション（住居と商業施設）、勉強できる場所のほか、シェアガーデンなどの意見があった。

意見の要旨	
ホール・ホール機能	50名程度収容規模で音響施設が整った、市民文化会館よりも小規模のホール整備（教室）が望ましい。ライブハウスやライブバーを借りる手もあるが、自ら企画し、友人・知人を呼んで発表できるような場として、安価で利用できる公共の小規模ホールのニーズがあると思う。
	駅前に市民文化会館のような施設があれば、地方来場者の利便性が向上する。反面、駅周辺の利便性が高まると、同じまちなかでも来訪者が減っていくエリアも出てくる難しさがある。
	ホールが核になると思うが、付随施設として挙げられるような図書館や公共施設は市内各箇所に点在している。今後はメタバース（仮想空間）の世界が進んでいくと思われ、貸しオフィスや大規模な会場は不要になってくるのではないかと。
	買物公園内において、天候を気にすることなく、まずは小規模の発表の場から、次の目標に向かって発展するステージとして、コンサートや演劇、講演などができる100～200名規模のホールがあると良い。
	次の時代を見越して多くの人を呼べる施設を造ってほしい。大ホールの機能は維持し、MICE（企業等の会議、研修、展示会、見本市など多くの集客交流が見込まれるイベント）がない時に、いかに市民に優遇され、多目的に使える施設になるか。札幌kitaraの2,000席ある大ホールのように、旭川でもオーケストラのフルメンバーが演奏できる規模の施設が望ましいと言う人もいる。
その他施設・機能	住居と店舗が入ったタワーマンション。
	市民文化会館には食事ができる施設がなく、弁当を頼んでもゴミは自分で捨てる必要があり不便。複合施設には飲食店が必要。
	少し雑踏のあるような高校生の居場所が必要で、そこでは200席程度の椅子と書籍を置いて、勉強できる場所が必要。カフェや軽食の併設も良い。
その他意見	ビルの屋上などにシェアガーデンを整備し、畑で採れた野菜を地元飲食店や地域住民のコミュニケーションツールとして使う手法もあるのではないかと。耕作地を求めている高齢者も多いので、健康づくりにも寄与すると思われる。
	図書館や運動できる場所、子育て支援、音楽コンサートや演劇ができる理想的な施設には、地域外からの利用者もいる。
	体育館が併設する大型店もあるため、特に必要な施設のイメージはない。
	休日に人が訪れる施設があっても活性化はしない。単に人が来るだけ。お金を掛けても効果はない。
	複合施設というと聞こえは良いが、運営は得意ではなさそうなイメージがある。建物を整備するだけで終わってしまうのではないかと。

### ④ 中心部への大学設置

中心部への大学設置に関しては、人の流れや賑わいに繋がるなどの意見のほか、まちなかへの設置の難しさやメリットが考えられないなどの意見があった。

意見の要旨	
肯定的な意見	若者が多くなることで、まちなかの活性化には良いと考える。
	新設学部を設置により、まちなかに人が集まる。駅から歩いて行ける適度な距離に設置するのが望ましい。
	七条緑道や常磐公園辺りに設置すれば、人の流れに繋がる。
	分校を設置することには賛成。北都中学校などの跡地活用も良いのでは。
	中心市街地に大学が設置されることは、現役の学生のみならず、卒業してからも若い人が集まるきっかけとなることも期待され、良いことである。
	大学もあった方が良い。サテライトや複合施設でも良い。市役所も新しくなることもあり、人の流れが生まれてくることが重要である。
	旭川は大学が少な過ぎると言われることもあり、サテライトであってもまちなかにあると良い。
	永山では旭川大学の影響が強く、学生と地域住民の世代間交流が行われていることもあり、



意見の要旨	
否定的な意見	<p>まちなかにも大学を設置した方が良い。</p> <p>中心部に大学の分校があれば、まちなかの流れが良くなる。学生がまちなかで料理を作る施設などあれば良いのではないか。複合施設に入れるとそこから出歩かないので、買物公園を歩いて賑わいを出すためにも、空き店舗を利用して埋めていく必要がある。</p>
	<p>学生にとってのメリットとデメリットを考えると賛成しかねる部分がある。旭川大学と中心市街地の距離に不便も出るのではないか。過去、緑道にある店舗の2階を旭川大学のサテライト教室として借り上げていたが、徐々に使う回数は減っていったようだ。</p>
	<p>川のおもしろ館は何か別の用途に使用した方が良いと考えている。まちにキャンパスができることで賑わいが生まれるかは疑問。学生は数年で卒業するので、まずは大人達が自力でコミュニケーションを形成し、下地を整えなければ、学生の入替えが続くだけで、そこに残るものはない。</p>
	<p>就職先などが増えることで、転出者の抑制に繋がれば良い。中心部に来てくれるのは良いと思うが、永山から学部を移すのは難しいのではないか。</p>
	<p>中心部に大学があれば良いとは思いますが、運営は大変になる。勉強するのはまちなかでなくても良い。サテライトを設置する学校は多いが、学生が通う施設はあまりない。費用対効果を考えるべき。</p>
	<p>旭川大学には地方出身の一人暮らしが多い。大学がある永山は、家賃が安くて駐車場もあるアパートが多く、生活しやすい環境にある。かつて緑道の店舗に旭川大学のサテライトキャンパスを設置したことがあるが、地元商店街の利用は僅か10%程度であり、みんなイオンに行っていたという調査結果がある。</p>
	<p>大人の視点では、まちなかへのキャンパス設置により中心市街地が活性化するだろうと思っても、学生と親にとってみればメリットはない。アルバイト先はあるかも知れないが、高い家賃と駐車場代がかかり、オンライン授業があっても他の学部との交流はなく、サークル活動があるときは永山に行くなど、学部が分かれることで本当に学生が充実できるのか。学生の目線で考えることが重要あり、商店会としても何か斡旋するなど、受け入れに向けたサポートが必要になる。</p>
	<p>学生は学校の敷地と建物で学ぶので、大学自体が誇りに思えるキャンパスが理想。設計が入った雰囲気や緑がなければ、建物は単なる箱に思える。</p>
	<p>永山は中心市街地から遠いので、まちなかに移設するには中途半端な位置にある。都内の大学はかつて都心から郊外に移設されたケースが増えた時期があったが、学生が田舎でアルバイトできる環境も少なく、結局都心に戻ってきた。</p>
	<p>まちなかに大学を設置するのであれば、常磐公園周辺や旧科学館という声もある。古い建物を改修しても、学生にとって面白いと思う。</p>
<p>市の新庁舎もできることから、時間はかかるかもしれないが、緑道、市役所、旭川はれて、そして大学へと続くような動線ができると良い。</p>	
その他意見	

### (3) その他

テーマ毎の意見のほかに、自由意見として次のとおりの意見があった。

意見の要旨
先日開催された買物公園50周年シンポジウムでは、昔からまちづくりを担ってきた人、新しくやってきた人、大学生などがパネリストを担いとても良い内容だった。このようなイベントを定期的に開催してほしい。
旭川はれて内のガーデンは、お金を払わなくても良い機能を持ち、市民に開かれた場所。お店の人とのコミュニケーションも含め、心が豊かになることが望ましい。
まちなかぶunka小屋は芸術・文化の拠点の役割を担う場所としてスタートしたが、文化的な事業だけではなく、社会福祉的な側面も持つことで、結果的に多くの人と繋がりを持ち、様々な面で助けられている。これまで支援されていた人がプレイヤーになり、次はイベントを企画する側になるといった循環も起こっている。
まちなかぶunka小屋を催しの会場として使用する人には、買物公園を盛り上げたいという気持ちを持つ人が多く、継続して利用されている。
スケートボードができる場所がないため、禁止してもやる人は出てくる。走行できる施設を作っても良い。
まちなかに居住している高齢者はどんどん減っている印象。これまで見かけていた人も少なくなり、新たに住む人も少ないのではないか。
旭川は住みよい環境にあるので、まちづくりに参加しようとする人が少ないのではないか。例えば、札幌の人は自分たちのまちの話をしないが、名寄の人はまちづくりの話題が多い。まちとしての規模が小さいほうが、住民主体のまちづくりに上手くコミットすると感じた。
旭川を発展させるためには行政の力ではなく、民間企業が力を付けて発展していくことが重要。企業収益が増え、社員の所得が増えることで、市内の経済が循環し、活性化に繋がっていく。しかしながら旭川の企業には体力がなく、人のいる場所で商売が成功するという原則から乖離している。企業誘致しても収益は外部（本社所在地等）に流出するので、旭川の地場産業を元気にしていくことがまちの発展に向けて最優先だと考えている。
都会の緑はよく手入れされている。旭川は自然が近くにあるが、街並には手を入れられた緑の景観が少ない。
町内会の必要性が問われている。多くの人が前向きな気持ちを持ってまちの景色を変えていくことが必要であり、種を蒔き、育てて刈り取るといったように、自分の畑として取り組む意識を持って貰う。このエリアにある景観を武器に、地域住民の手と気持ちを整えていくことが大切。
商店会としての課題は空き家対策。空き家を狙って空き巣が入り込むため、街灯により対応している。空き家が増えると除排雪も大きな負担がかかる。花壇を充実させた景観先行型でアピールしなければ、悪い方向に進んでいく場所でもある。
若い世代がこの場所に興味を持っているが、古い地権者が土地を譲らない。また建物の老朽化も激しいので設備投資や解体費用が必要となり、出店のハードルが高い。
銀座商店街の雰囲気はレトロと捉えられているが、実際にはビルが建ち、一部には新しい施設もある。
オープンした大型店には、食料品など小分けで販売されておらず、一人暮らしの高齢者にとって不向きのため、少し離れたスーパーで買物をしている人が多い。過去、近隣にスーパーなどあったが、商店街と客を取り合うようなことはなく、相乗効果で客足の増加に繋がっていた。
市民委員会の高齢化が著しく、若返らなければ成り立たない。若手の方に考えてほしい。
旭川市は計画的にドーナツ化現象を進めている感さえある。行政としてコンパクトシティを推進し、除雪等に掛かる費用なども抑えなければ財政破綻する可能性もある。
計画を実行に移すためには具体性を持たせること。抽象的な表現は市民にとって分かりづらい。
以前参加したワークショップにおいて、全国展開している大型店の話題になり、採算が合わない店舗は今後どんどん閉店し、その代わりに徒歩で歩ける範囲にコンビニサイズのスーパーが展開されていくと伺った。今後の社会情勢を見据えたまちづくりが必要。
中心市街地の活性化については、財政難という問題もあるが、中途半端にやってはいけない。しっかりとした大きな方針のもとに進めていく必要がある。
二度の火事をきっかけにみんなが同じ方向を向くことができた。時間はかかったがみんなで見守りを絞り、特色のあるエリアとなったと思う。
旭川はれてのオープンや大学が中心市街地活性化の起爆剤となってくれることを期待しているし、われわれも一緒に協力して盛り上げていきたい。
町内会に加入する世帯が少なく、マンションや企業が入る地域では特に苦勞している。60歳以上でPCを扱えるのは何人もいないため、町内会の役員を担う人は決まっておらず、後継者もない状況。積極的に町内会に関わるようお願いしたい。
町内会の役割として、道路とゴミ処理と電灯に関することが出来れば文句は出ないが、高

### 意見の要旨

齢化が著しく、ゴミステーションの周りの除雪を91歳の高齢者が行っている実態もある。

旭川はれてのオープンや、新庁舎の供用という話題もある中、中心市街地活性化基本計画の折り返しで五合目まで来ているが、どのように当初の意志を貫徹して取組を進めていくべきか。取組の指標となる通行量調査との照らし合わせや、主要施設利用者数の実態も半減している中、令和5年度以降は今の10～20代の若者が中心となり、今後開設60～70年を迎える時期の買物公園を見据えた取組が必要。しかしながら、まちなかに出る若者自体も減ってきて将来を見据えた活動は難しく、若い世代に仕組みやインフラをつくって譲るというより、今からどんどん使ってもらふことが必要。

まちづくりに関わるプレイヤーとして学生にも入ってほしい。特に女性の方が活躍している傾向にある。

### 3 実施時の配付資料

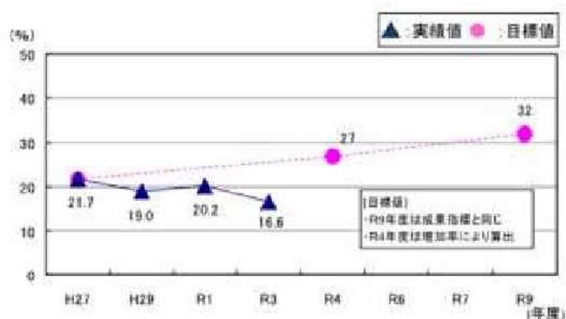
令和4年8月  
旭川市

## 『旭川市中心市街地活性化基本計画』の点検と見直しに向けて

- ✓ 現在の計画期間は平成29年度から令和9年度まで
- ✓ 令和4年度は計画期間の中間にあたる年
- ✓ 現在の計画の点検及び見直し作業を実施
- ✓ 市民2,000人を対象としたアンケートを実施するほかWEBによるアンケートを実施中（9月16日〆切）
- ✓ その他関係団体への聞き取りを実施
- ✓ アンケート結果やヒアリング結果を踏まえた改定計画の策定

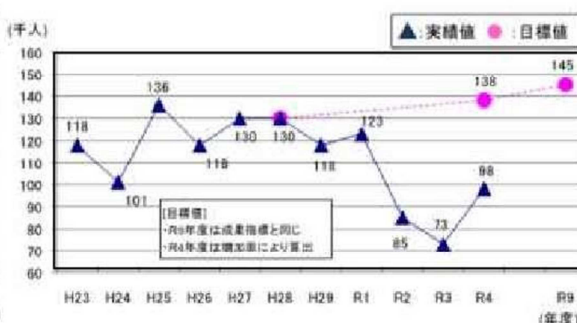
### 中心市街地の状況①

旭川市は賑わいと活気のあるまち  
だと思う市民の割合



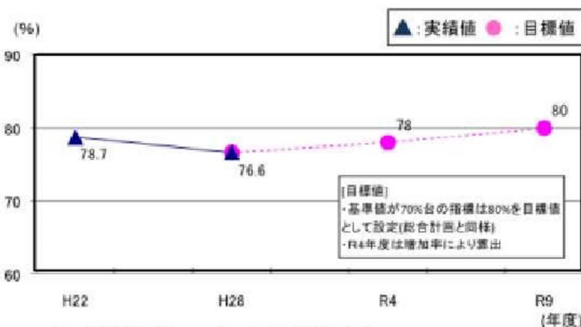
□ 旭川市総合政策部 市民アンケート調査から

中心部の歩行者数



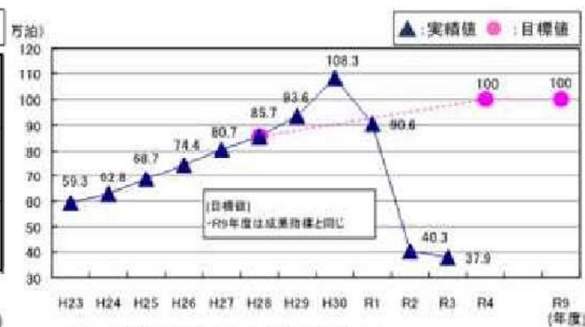
□ 平和通買物公園通行量調査結果から

中心部の滞在時間



□ 地域振興部 アンケート調査結果から  
滞在時間が1時間以上の人の割合

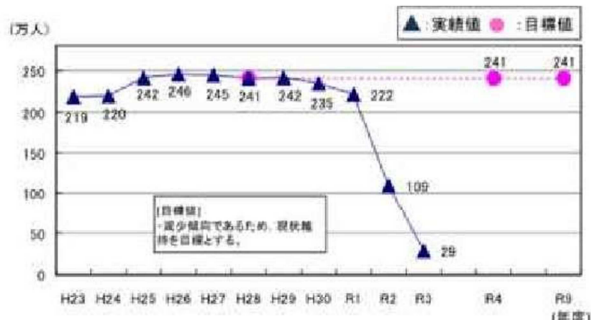
観光客宿泊延数



□ 上川管内観光入込客数調査報告から

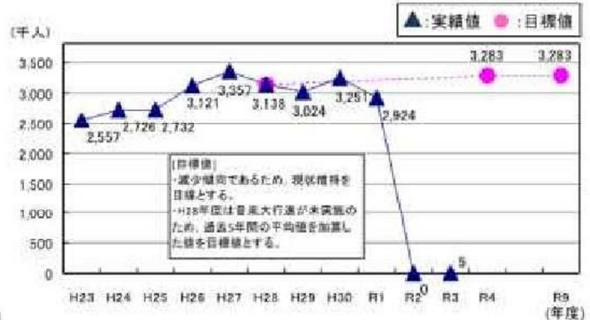
## 中心市街地の状況②

### 主要施設利用者数



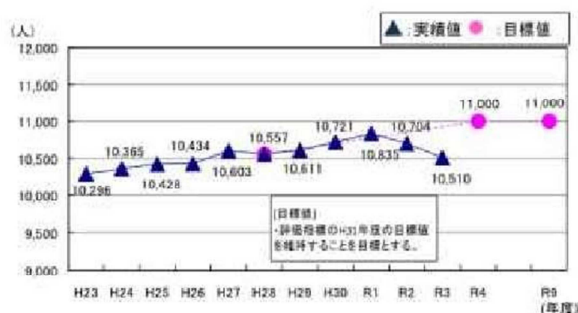
- もりもりパーク、ステーションギャラリー、市民文化会館、公会堂、中央図書館、常磐館、道立美術館、科学館、市民活動交流センター、北彩都子ども活動センター、障害者福祉センター、大雪アリーナ、大雪クリスタルホール、道の駅、博物館、神楽図書館、神楽公民館の15施設の利用者数の合計値

### 主要イベント動員数



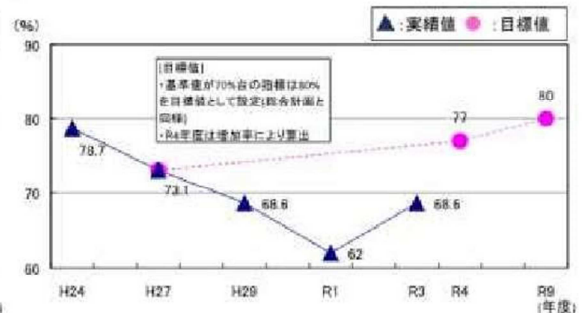
- 音楽大行進、花フェスタ、北の恵み 食べマルシェ、夏まつり、冬まつり、パーサーロペット(北彩都會場)、冬のガーデンの動員数の合計値

### 中心部の居住人口



- 中心商店街地区と北彩都地区の合計人口から(10/1現在)

### 暮らしやすさ(中央・新旭川地域)



- 旭川市総合政策部 市民アンケート調査から

## 計画見直しに向けた作業スケジュール

- R4.8月～ 地域の団体への聞き取り  
WEBアンケート調査  
市民2,000人を対象とするアンケート調査
- R4.10月 中心市街地活性化に関するフォーラム開催
- R4.11月 中間点検に係る報告書、改定計画(素案)作成
- R5.12月～ 改定計画(素案)に対するパブリックコメント
- R5.2月 改定計画(案)作成
- R5.3月 改定計画の策定
- R5.4月～ 改定計画に基づく各種事業の実施

## ヒアリング事項（お聴きしたいこと）

- ① 今後の買物公園について
  - ・歩行者専用道路（歩行者天国）に関する事
  - ・自動車の通行に関する事
  - ・電動キックボードの通行に関する事
  - ・自転車の通行に関する事
  - ・イベント開催に関する事
- ② 中心市街地の活性化について
  - ・活性化に必要な事
  - ・整備が必要な施設はあるか
  - ・複合施設、どのような機能が必要か
  - ・中心部の大学設置
- ③ その他

## 【情報提供】

WEBアンケート実施中

### 調査の内容

- まちなかへの来街頻度や滞在時間，消費動向，満足度など
  - 買物公園の賑わいづくり
  - まちなかへの施設や機能の集約
  - 電動モビリティや自転車，自動車が買物公園を通行すること
  - まちなかでのイベント，屋外ライブなど
  - まちなかの公共交通の利便性
  - まちなかでの移動手段等の状況
- 等についてお伺いします。

QRコードは  
こちら ⇒



調査にご協力をお願いします